

特集

インプラント審美補綴における チェアサイドとラボサイドの 共通認識と情報伝達

新連載

超高齢社会に対応できるインプラントシステムを目指して
第1回 ITインプラント開発の背景とそのコンセプト

全顎的インプラント治療

咬合崩壊した高齢者に対して咀嚼機能の早期回復を目指した一症例

New technique

ニューヨーク大学発 新しい水平的骨造成法の紹介

Custom Alveolar Ridge Splitting Part 3 : 下顎への応用

Scientific illustration

イラストで見る白血病

サイナスリフトシリーズ連載

サイナスリフトが極めて困難な症例、断念しなければいけない症例について

特集

05 インプラント審美補綴における チェアサイドとラボサイドの 共通認識と情報伝達

新井 達哉 Practice adviser 林 揚春



新連載

31 超高齢社会に対応できるインプラントシステムを目指して 第1回 ITインプラント開発の背景とそのコンセプト

飯島 俊一



全顎的インプラント治療

47 咬合崩壊した高齢者に対して 咀嚼機能の早期回復を目指した一症例

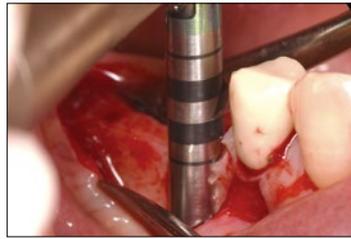
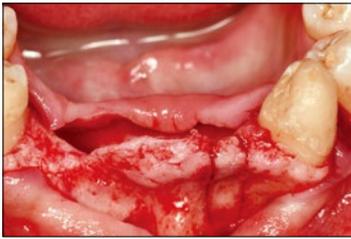
氏井 公治



New technique

73 ニューヨーク大学発 新しい水平的骨造成法の紹介 Custom Alveolar Ridge Splitting Part 3 : 下顎への応用

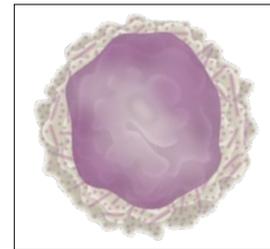
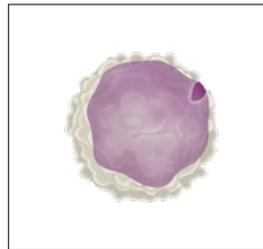
覚本 貴仁・澤田 光弘・鈴木 貴規・Sang-Choon Cho



Scientific illustration

87 イラストで見る 白血病

井上 孝



サイナスリフト シリーズ連載

93 サイナスリフトが極めて困難な症例、 断念しなければいけない症例について

小林 文夫



Topics & Information 124

Study Group 紹介 128

特集

インプラント審美補綴における チェアサイドとラボサイドの共通認識と情報伝達

新井 達哉
ユーデンタルアート

Practice adviser 林 揚春 医療法人社団 秀飛会 理事長
日本大学客員教授



インプラント審美補綴は、天然歯のように美しい歯冠形態と色調を持ったクラウンを作ればよいというわけではなく、上部構造の歯肉縁下形態にも工夫を凝らして歯肉のデザインを行う必要がある。それだけに、チェアサイドとラボサイドの綿密な連携は欠かせないものになってきた。これは単に患者情報を共有するというだけではなく、治療チームとして歯科技工士は歯科医師の考えや知識を、歯科医師は歯科技工士の考えや知識を共通認識として共有した上で、各々が同一のゴールを目指して専門分野での果たすべき役割を

担っていくことが重要であると考えている。

具体的には、インプラント埋入ポジションと補綴形態の関係は、歯科医師と歯科技工士の共通認識がないと審美補綴というゴールは限りなく遠のく。逆に歯科医師と歯科技工士の共通認識が定まっていれば、ゴールは限りなく近づくといえる。

本稿では、ラボサイドの立場から、インプラント審美補綴においてチェアサイドと共有したい共通認識事項と、それに伴う情報の収集とその伝達方法について述べてみたい。

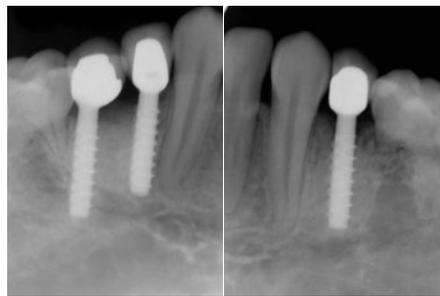
連載

超高齢社会に対応できる インプラントシステムを目指して

第1回 ITインプラント開発の背景とそのコンセプト

飯島 俊一

アイ・ティー・デンタルクリニック(千葉県)



歯科インプラントの応用により、天然歯を失った患者が満足できるだけの機能回復や審美回復が高いレベルでできるようになり、多くの患者がその恩恵を受けられるようになった。しかし一方で、インプラント治療は既存骨の状態により、その応用が難しくなることも事実である。その理由の一つに、インプラントとアバットメントの連結様式の主流がインターナルコネクションになったことで、インプラント体にはアバットメントを嵌入するための大きなホール(空洞)が必要となり、インプラント体の強度を確保するために直径を細くできなくなっていったことが挙げられる。日本人は欧米人と比較して骨量に乏しく、狭窄した歯槽骨形態も多い。欧米人を基準にした直径のインプラント体では対応できないことも多く、結果的に骨移植やGBRなどの応用が必要となる症例が増えることになる。しかし、骨移植やGBRなどで外側に

造骨した部位は経時的に骨が喪失していくこともわかっており、長期的視野から考えると予後に不安が残る。

さらに、インプラント周囲炎の問題もある。インプラント周囲炎はインプラントとアバットメントの連結部に存在するマイクロギャップや、アバットメントに装着する上部構造のマージン部に存在するマクロギャップなどが炎症の温床になるとされており、近年は上部構造をセメント固定した場合の残留セメントがインプラント周囲炎を惹起することも指摘されている。

筆者は、これらの問題を解決するために、新しいコンセプトのインプラントシステムを考案し、株式会社プラトンジャパンと共同開発したので、開発コンセプトから臨床応用までをシリーズで紹介したい。第1回は開発の背景とコンセプトを紹介する。

咬合崩壊した高齢者に対して 咀嚼機能の早期回復を目指した一症例

氏井 公治
氏井歯科矯正歯科(大阪府門真市)



咬合崩壊によって思うように食事が摂れないと全身に悪影響が及ぶことは言うまでもない。特に高齢者の場合は、加齢によっても身体能力が低下しつつあるため、栄養摂取の要である口腔機能が低下するということは、身体の衰弱を加速させることにもつながる。早期に咬合回復を目指すためには、可撤式の床義歯が応用されるが、咬合力や咀嚼能力の回復度からするとインプラント治療には及ばない。また、床義歯の使用を頑なに拒んで、インプラント治療を希望する患者も少なくない。しかし、様々な原因が複雑に絡み合っ

て咬合が崩壊しているケースなどでは、インプラント治療によって咬合を再構成して口腔機能を改善するのは容易ではない。また、従来のインプラント治療のプロトコールに従うと治療期間が年単位の長期に及ぶこともあり、口腔機能が回復する前に身体の衰弱が危険域に達する可能性も高い。

本稿では、咬合崩壊した高齢者に対して、インプラント治療によって早期の咀嚼機能の回復、そしてQOLの改善を目指した症例について、筆者の反省点も含め解説していきたい。

ニューヨーク大学発 新しい水平的骨造成法の紹介

Custom Alveolar Ridge Splitting

Part 3 : 下顎への応用

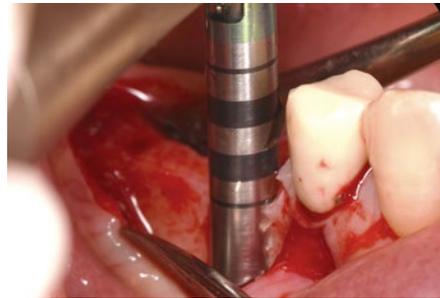
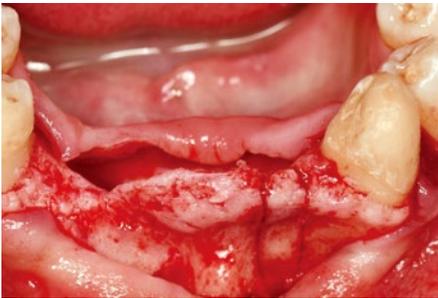
覚本 貴仁*・澤田 光弘**・鈴木 貴規***・Sang-Choon Cho****,****

* 覚本歯科医院 (栃木県小山市)

** さわだ歯科医院 (大阪府八尾市)

*** Clinical Assistant Professor, Advanced Program in Implant Dentistry, Department of Periodontology and Implant Dentistry, New York University College of Dentistry, New York, New York, USA.

**** Director, Advanced Program in Implant Dentistry, Department of Periodontology and Implant Dentistry, New York University College of Dentistry, New York, New York, USA.



歯槽骨吸収に伴い萎縮した下顎骨は、多くの場合、基底骨が密に皮質骨で構成されることから、外面の血液供給が疎な状態であり、従来の骨造成法の障壁となる。CARS (Custom Alveolar Ridge Splitting) テクニック連載シリーズの最終稿となる今回は、前回に引き続き臨床応用編として、下顎におけるインプラント治療をレビューし、より低侵襲な骨欠損への対応法を症例とともに紹介する。

イラストで見る 白血病

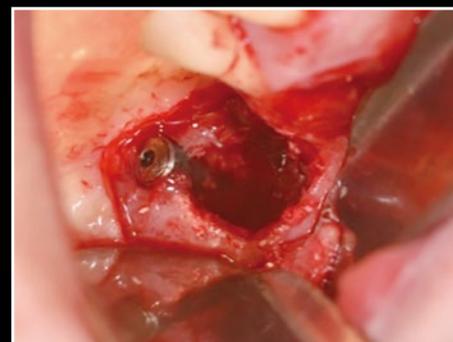


井上 孝

東京歯科大学 特任教授 名誉教授・東京医学技術専門学校 副校長
日本口腔インプラント学会 基礎系指導医
日本口腔検査学会 前理事長

白血病はがん化した血液細胞が増え続けて血液が少し薄い灰赤のようになるために命名されたものである。歯科とは直接関係はないかも知れないが、近年は患者の自己血を遠心分離で血漿と血球に分離して、濃縮した血小板を含む血漿を治療に応用しているケースも少なからず見られる。白血病を理解することで、患者の血液を分離した際に異変に気づき、検査を勧めることで早期発見につながる可能性も無きにしも非ずである。

今回は白血病について解説したい。



サイナスリフトが極めて困難な症例、 断念しなければいけない症例について

小林 文夫

小林歯科医院 (兵庫県神戸市)

本稿で検証するのは、解剖学的、生理的、全身疾患、一度上顎洞底挙上術に失敗した症例 (Crestal approach も含む) 等により手術が困難な症例、断念しなければならない症例、術者のスキルにより適応症といえなかったりする症例である。

これまでにサイナスリフトに関する様々なテーマについて連載してきたが、最後にサイナスリフトが困難、断念しなければならない症例について参考症例を紹介しながら述べてみたい。